資料３－１

インベントリにおける算定方法の改善について（案）
（インベントリ WG：分野横断的な課題）

１．対応方針の概要

１.１　改善が図られた事項

（1）QA/QC（品質保証／品質管理）の改善

訪問審査等において専門家レビューチームより品質保証（QA）手法の改善が推奨されていたが、昨年度策定した「日本の温室効果ガスインベントリに関する QA/QC 計画」に従って、今年度新たな QA プロセス（インベントリ品質保証ワーキンググループ）を設け、農業分野及び廃棄物分野でインベントリの QA を実施した。今後は、今回実施した QA プロセスにおける課題を踏まえた上で具体的な QA 実施プロセスの改善を図り、来年度以降も継続的にインベントリ品質保証ワーキンググループを実施していくこととする。

（2）石炭製品製造部門の炭素収支

2006・2007 年度の石炭製品製造部門において、炭素の産出量が投入量を上回る状況（炭素の湧き出し）が見受けられたことについて、総合エネルギー統計の 2008 年度速報版では炭素の湧き出しは見られなかった。今後、総合エネルギー統計において、石炭製品製造部門の炭素収支を随時確認することとし、例えば 3 年以上炭素の湧き出しが続くなど、炭素収支に系統的な誤差の傾向が見られる場合には検討を行うこととする。

２．主な継続検討課題

（1）統計データの早期化と精度確保

我が国の温室効果ガスインベントリは、現状では、我が国は暦年ではなく年度で集計するため、また統計の集計及びインベントリ作成に要する期間から気候変動枠組条約事務局への提出期限である 4 月 15 日に確定値が提出できていないため、引き続き律速となっている統計の早期化及びインベントリ作成プロセス短縮の検討が必要である。

例年 11 月頃公表している速報値についても、早期公表のため、確定値同様早期化が必要な統計については正確性に配慮しつつ引き続き早期化に努める。

（2）不確実性評価手法の改善

専門家レビューチームからの指摘に対応し、全ての排出・吸収源の算定結果に対してモンテカルロ法（Tier 2 手法）を適用した不確実性評価を実施し、2011 年提出インベントリの NIR（国家インベントリ報告書）に記載する。

（3）分野横断的課題への対応強化

原料及び非エネルギー利用（非燃焼用途）からの排出量の算定（エネルギー分野、工業プロセス分野、廃棄物分野に関係）や、農地に還元される窒素量の算定（農業分野、廃棄物分野に関係）などの分

野横断的課題について、各分科会との連携をより一層強化するとともに、必要に応じて、インベントリ WG において各分科会の委員を交えた形式での検討を実施する。

また、インベントリ品質保証ワーキンググループにおいて提起された分野横断的課題について、来年度以降のインベントリ WG の課題として採り上げ、検討を行う。